

令和6年度 予算審査要望書

本市の立地特性をいかした国際防災拠点整備の推進

1 令和6年1月1日に能登半島地震が発生した。甚大な被害は復旧に相当の時間を要する状況であることから、今後、頻発化・激甚化が想定される国内外の災害への備えが急務である。災害リスクを踏まえたレジリエンスの向上に努めるとともに、被災地支援のためにも、本市の地理的優位性をいかし、国際防災拠点整備に向けた歩みを確実に進められたい。

行政サービスの向上及び移住・定住支援の拡充

2 移住・定住を促す前提として、市民が「佐野市は住みよいまち」と感じてもらわなければならない。市民の多様なニーズに対応するためにも行政窓口の役割は重要である。新たにスタートする(仮称)佐野新都市行政サービスセンターの運営を充実させ、更なる市民の利便性及び行政サービスの向上に取り組まれたい。

そして、住みよいまちづくりとともに、地域おこし協力隊及び移住・定住コーディネーターの設置並びに対象を捉えた事業遂行による移住・定住支援の拡充を積極的に取り組まれたい。

ゼロカーボンシティさのの実現

3 本市は、「ゼロカーボンシティさの」の実現に向けて大きく動き出そうとしている。その実現に向けたロードマップの共有はもとより、具体的施策を市民に分かりやすく周知し、機運を高める必要がある。Z E H化、Z E B化、S B T認定等の略語は意図が伝わりにくいため、その考え方又は意義を的確に、丁寧に、かつ、繰り返し、様々な機会を捉えて発信し、賛同者を増やしながらか、「ゼロカーボンシティさの」の実現に向けてまい進されたい。

また、市有施設における再生可能エネルギー発電設備の導入は、行政が市民の先頭に立って「ゼロカーボンシティさの」の実現をけん引する姿勢の現れとなるため、その導入を早急に計画されたい。

子育て世代から高齢者までが安心して暮らせるまちづくり

4 本市においては、令和5年の年間猛暑日が42日を記録した。近年の夏場の暑さは血管にダメージを与え、蓄積されたダメージが冬場のヒートショックにつながりやすいとされている。夏場の熱中症対策に加え、冬場のヒートショックへの注意喚起に努めるとともに、各種がん検診の無料化による検診受診率の向上及びさのまる健康アプリの活用の促進を図り、市民の健康寿命及び平均寿命の延伸に努められたい。

また、0～2歳児の第2子保育料無償化が今秋から県の事業となることから、その財源を活用した副食費の無償化の実施並びに公立保育園の延長保育及び放課後児童クラブの時間延長の推進を図り、子育て環境の改善に努められたい。

ひとを集める観光・スポーツツーリズムによる地域活性化の推進

5 本市は、関係人口・交流人口の増加を目指して、国内外を問わず地域資源の魅力を発信するとともに、経済交流、産業振興、教育・国際交流等につなげ、地域活性化を図るべく多くの取組を展開している。また、2028年に開催予定のロサンゼルスオリンピックで正式競技となったクリケット等を活用したスポーツツーリズムの推進による来訪者並びに観光入込客数及び観光客宿泊数の増加が本市の発展に大きく寄与すると考えており、今後、より一層具体的な施策の実行が求められる。そこで、多くの市民の理解を得ることを前提として、国内外を問わず来訪者への効果的な情報発信、来訪者の受入体制の充実、佐野市国際クリケット場の有効活用等を図り、更なる地域活性化に努められたい。

新たな産業拠点整備及び企業誘致の促進

6 本市は、全ての産業用地が分譲済みとなっており、企業の進出が困難な状況であるため、新たな産業用地の整備を促進する必要がある。また、企業が本社機能をスムーズに移転することができる仕組みづくりも急務である。そこで、国道50号沿線開発調査事業及び新産業用地開発推進事業をはじめとした、新たな産業拠点整備及び企業誘致に関するあらゆる施策を着実に実施し、新たな雇用の創出及び税収増に向けた取組を力強く推進されたい。